

完了後の評価個表

整理番号	29
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	鹿児島県
地域（地区）名	南薩	事業実施主体	県、市、森林組合等
関係市町村	鹿児島市ほか6市	管理主体	県、市、森林組合等
事業実施期間	H23年度～H30年度（8年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	本地区は、鹿児島県西南部に位置する薩摩半島、大隅諸島の一部、トカラ列島からなる。 北部の八重山を主峰に大小の山岳が東西に走り、中央部に金峰山、中央部から鹿児島湾寄りには、権現ヶ尾等が南北に走り、西部に野間岳、南部に開聞岳が、東部の鹿児島湾に面して活発な火山活動を続けている桜島がある。これらの山岳からは、五反田川、八房川、神之川、万之瀬川、馬渡川等が東シナ海に、甲突川、稲荷川、永田川が鹿児島湾にそそぎ、周辺の流域には肥沃な平野が広がっている。 本地区の森林面積は105千ha（森林率56%）、うち民有林が96千ha（森林面積の91%）で、民有林のうち人工林の面積は45千ha（人工林率47%）と、県平均の人工林率43%を上回っている。 人工林の齢級構成は、11齢級をピークに10齢級以上の林分が82%を占めており、森林資源の利用期を迎えている。 本地区の森林は、複数の河川の源流部に位置していることから、下流部の鹿児島市、南九州市等の水がめとして、また、鹿児島市には活火山の桜島が存在していることや、地形、地質等の自然条件から、土砂の流出防止等に重要な役割を担っている。 このことから、充実した森林資源を有効活用し地域の林業・木材産業の振興を図るとともに、主伐後の確実な再造林や計画的な保育、間伐等の森林施業を行うことにより、森林の有する公益的機能を持続的に発揮させることが重要な課題となっている。 このため、本事業では、南薩地域森林環境保全整備事業計画に基づき、再造林や間伐等の森林整備を積極的に実施するとともに、森林施業及び木材等の生産の効率化に不可欠な路網整備を一体的に実施したものである。 ・主な事業内容 森林整備 5,106ha 人工造林、下刈り、間伐、森林作業道整備等 路網整備 4,150m 林道開設、改良 ・総事業費 3,463,181千円（税抜き3,241,367千円） （平成22年度の評価時点 2,699,794千円）
----------	--

① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 事前評価で算出した総費用及び総便益と完了後の評価で算出した総費用及び総便益との差異は、地域の要望等を踏まえ、林業専用道の開設等を追加したことによる事業量の増加、費用便益分析に使用する労務単価や資材価格の変動等によるものである。 総便益（B）56,149,402 千円 （平成22年度の評価時点 8,901,124 千円） 総費用（C）7,176,513 千円 （平成22年度の評価時点 2,612,498 千円） 分析結果（B／C）7.82 （平成22年度の評価時点 3.40）
② 事業効果の発現状況	・ 5,106haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムを導入するなど、効率的な作業が行われ、木材の安定供給に寄与した。 ・ 林道の開設等により、4,150mが整備され、森林整備事業地までの到達時間の短縮や木材運搬等が容易になったことで、木材搬出等の効率化に寄与した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	・ 整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。 ・ 整備された林道は、林道維持管理規程に基づき適切に管理されており、良好な管理状況にある。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、木材の安定供給等といった多面的機能が発揮されている。
⑤ 社会経済情勢の変化	森林資源の充実とともに、素材生産量が増加傾向にある。また、^{くしきの}串木野新港などからの木材輸出、木質バイオマス発電施設の稼働など、新たな木材需要が創出されている。
⑥ 今後の課題等	・ 本格的な利用期を迎えている森林資源を循環利用することにより、森林の公益的機能の持続的な発揮を図りつつ、林業の成長産業化を実現していくことが重要である。 ・ 森林施業の集約化を図りながら、計画的な間伐や再造林等の森林整備及びその実施に必要な路網の整備を一層推進する必要がある。 地元の意見： （鹿児島県） 森林整備事業の実施により、水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮及び林道整備により、持続的かつ効率的な木材供給に寄与している。 今後も関係者と連携を図りながら森林整備事業に取り組んでいく。

評価結果	必要性： 水源の涵養や土砂の流出防止等といった森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるためには、主伐後の再造林や間伐等の森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。 効率性： 森林整備では、森林施業の集約化を推進し、施業内容に応じて路網整備と高性能林業機械を適切に組み合わせた低コスト作業システムの定着を図ってきている。また、林道整備では、現地の状況に応じた効果的かつ効率的な工種・工法を採用し、コスト縮減に努めており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られ、引き続き、その効果が適切に発揮されていることから、事業の有効性が認められる。
-------------	--

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

（森林整備事業）

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名： 鹿児島県

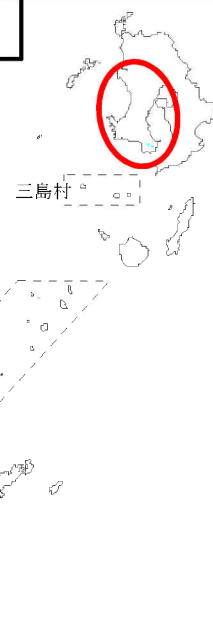
地域(地区)名： 南薩

（単位：千円）

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	16,095,093	
	流域貯水便益	4,020,301	
	水質浄化便益	16,364,482	
山地保全便益	土砂流出防止便益	11,153,819	
環境保全便益	炭素固定便益	3,560,248	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	20,377	
	木材利用増進便益	6,812	
	木材生産確保・増進便益	4,453,467	
森林整備経費縮減便益	森林管理等経費縮減便益	25,410	
	森林整備促進便益	363,167	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	57,710	
維持管理費縮減便益		28,516	
総 便 益 (B)		56,149,402	
総 費 用 (C)		7,176,513	
費用便益比	$B \div C = \frac{56,149,402}{7,176,513} = 7.82$		

森林環境保全整備事業計画 南薩地域(鹿児島県)

県内全域図

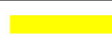


凡 例

計画区界



事業区域



整備区域



市役所・町役場



林道



市	町	役	所	新	私	公	等
村	界	界	界	界	界	界	界
市	町	役	所	新	私	公	等
村	界	界	界	界	界	界	界